

令和元年 1 1 月

逗子市教育委員会定例会

令和元年 1 1 月 1 2 日

逗子市教育委員会

会 議 録

令和元年11月12日逗子市教育委員会11月定例会を逗子小学校特別活動室に招集した。

◎ 出席者

教 育 長	村 松 雅
教育長職務代理者	塚 越 暁
教 育 委 員	村 上 朝 鼓
教 育 委 員	星 山 麻 木
教 育 委 員	若 林 順 子
教 育 部 長	山 田 隆
教 育 部 次 長	村 松 隆
教育総務課長事務取扱	
学 校 教 育 課 長	杵 山 英 廷
学校教育課担当課長	内 田 源一郎
社 会 教 育 課 長	橋 本 直 樹
社 会 教 育 課 主 幹	佐 藤 仁 彦
図 書 館 長	安 田 清 高
図 書 館 担 当 課 長	鈴 木 幸 子
療育教育総合センター主幹	奥 村 文 隆
教育研究相談センター所長	
子育て支援課担当課長	中 村 妙 子
(子育て支援担当)	
子 育 て 支 援 課 主 幹	村 上 晴 美
教育部参事(保育担当)	杉 山 正 彦
保 育 課 長 事 務 取 扱	
市 民 協 働 部 長	芳 垣 健 夫
文 化 ス ポ ー ツ 課 長	阿万野 充 代

事務局

教育総務課係長 須田純子

教育総務課主事 吉井まどか

◎ 開会時刻 午前 9 時 3 0 分

◎ 閉会時刻 午前 1 0 時 3 0 分

◎ 会議録署名委員決定 星山委員、若林委員

○村松教育長

会議に先立ち、傍聴の皆様をお願いいたします。傍聴に際しては、入口に掲示されております注意事項をお守りくださるようお願いいたします。なお、報道関係者以外の録音、写真撮影につきましては、許可しておりませんので、御了承ください。また、教育委員会の議決により、秘密会にすべき事項と思われる案件が出されたときには、退場いただく場合がありますので、御了承ください。

○村松教育長

定足数に達しておりますので、ただいまから令和元年逗子市教育委員会11月定例会を開会いたします。

それでは会議に入ります。本日の会議日程はお手元に配付したとおりでございます。

会議規則により、本日の会議録署名委員は星山委員、若林委員をお願いいたします。

これより会議日程に入ります。

◎日程第1「教育長報告事項について」

○村松教育長

日程第1「教育長報告事項について」を議題といたします。

それでは、私から2件の会議について御報告をいたします。まず1つ目は、10月29日に行われました令和元年度神奈川県都市教育長協議会臨時総会についてです。これは秦野市で行われました。総会ということで、前年度事業報告、決算、今年度の事業予定等が話し合われた後、慣例により参加各自治体の情報交換が行われました。今回は、大きく3点について、全19の都市から報告がありましたが、主立った点、3点にわたって御報告いたします。

まず1点目は働き方改革に関してです。これは小田原市から、スクールサポートスタッフについて、県の、文部科学省の働き方改革の項目の中にはスクールサポートスタッフの導入というのがあるけれども、神奈川県がそれについて事業化に参加をしていないので、小田原市からは神奈川県に対して、ぜひその事業化をしてほしいと。小田原市自体は、県が事業化すると国・県から補助金が出るということですが、それがなかったとしても、市単独で各学校に、いわゆる教員の事務的内容をサポートするスクールサポートスタッフの導入を計画をしているという報告がありました。

2つ目は中学校給食のそれぞれの自治体の状況です。横浜市は「ハマ弁」と言われているものについて、さまざまな工夫をし、当初1.3%の喫食率が、6%になりましたという報告

でした。藤沢市は、全校で実施して、現在30%台と報告がありました。座間市についても、逗子市と同じようなボックスランチ方式で、これも30%。お弁当、それから給食と、保護者が選択できる状況ということで、特にこれを上げるという想定はあまりしていないといった話がありました。

3点目は、台風の直後でしたので、台風被害についてでした。横須賀市では、小学校に隣接している公立保育園の園舎が台風により大規模な倒壊があり、現在、小学校の中で保育園を運営し、保育園は全面建てかえという予定でいるという報告がありました。三浦市では、海沿いの小学校の体育館の屋根が飛んで、現在体育館が使えない状態であるという被害の話がありました。他の自治体も、避難所になったということで、かなり想定外の対応をしたというような報告もありました。逗子市からは、台風の避難所の話、中学校給食実施5年で、現在の状況についての報告をいたしました。

次に、昨日、11月11日に行われました神奈川県市町村教育長会連合会の総会について御報告をいたします。こちらも総会でしたので、昨年度の事業報告、決算、本年度の予算等が終わり、その後、鎌倉市のほうからやはり台風についての特に学校避難所の対応について、ぜひ他の自治体の御意見を伺いたいというような提案がありまして、それについて、ここは参加、神奈川県下33でしたので、全部の報告はできませんでしたが、主立ったところの報告がありました。

かいつまんで申し上げますと、学校が避難所になり、さらに浸水被害があるので、通常の体育館・特別教室ではなく、普通教室等を使って避難所としたという、想定外のことが多かったので、それに伴う話題がかなり多かったです。特に、ダムの放水を見越して、相模川沿線の自治体については、かなり避難者も多く、小田原市では7,000人、茅ヶ崎市では8,000人、海老名市でも3,000人というような規模の避難で、それがあつた学校に集中していたということもありました。垂直避難で教室を使ったので、その教室での想定外の使用、例えばペットですとか、それから性別とか、あとは車椅子の方への対応ですとか、こういうのは全て教育だけの問題ではなくて、それぞれの自治体が今後のために書き出しをし、全部現場からの報告を受け次に生かすというようなことでしたので、これも本当は県内で共有ができたらいいなという声がありました。

結構テレビで報道された箱根町でしたけれども、箱根町は川が非常に急だったので、川がゆったり流れているところのほうが氾濫する。急流だったので、テレビでは早川の最下流がかなりの濁流でしたけれども、流れた分だけです、川の流域の被害はなかったということ

でしたが、ただ、通学路が寸断されて、現在子どもたちは借り上げのタクシーとか、さまざまなものを使って通学をしている現状があるということで、そこがまだだというように言っています。そういうふうにと考えると、逗子での避難所の対応は、ある程度の規模で適切に行われて、市民からも感謝の声もありましたし、今後に生かせればということでお話をさせてもらいました。

以上、私からは2点の会議について御報告をいたします。

本件について御質疑、御意見はありませんか。

2点あわせて御報告をいたしました。内容については、それぞれの自治体でまた情報があれば、適宜御報告をしたいというように思っています。

では、以上で教育長報告事項についてを終わります。

◎日程第2「議案第9号逗子市社会教育委員の委嘱について」

○村松教育長

日程第2「議案第9号逗子市社会教育委員の委嘱について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○橋本社会教育課長

それでは、議案第9号逗子市社会教育委員の委嘱について御説明申し上げます。

逗子市社会教育委員の委嘱について、現委員の任期が令和元年11月30日をもって任期満了となるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条の規定に基づき、別紙のとおり次期社会教育委員の候補者の委嘱の承認を求めるものです。

なお、次期社会教育委員候補者につきましては、逗子市社会教育委員条例第4条に基づく定数10人のうち8名が再任でございます。任期は同条例の第5条の規定に基づき、令和元年12月1日から令和3年11月30日までの2年となります。

以上、よろしく御審議ください。

○村松教育長

本件について御質疑、御意見はありませんか。

御質疑、御意見がないようですので、これより表決に入ります。議案第9号については、可決することよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

御異議ないものと認め、可決することに決定をいたしました。以上で日程第2「議案第9

号」を終わります。

◎日程第3「議案第10号逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について」

○村松教育長

日程第3「議案第10号逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○村松教育部次長

議案第10号逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について御説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、令和元年度（平成30年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書の作成につきましてお諮りをするものです。教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価につきましては、本年6月定例会において御承認をいただきました実施方針に基づき、これを行い、その結果に関する報告書を作成するものです。

点検及び評価の実施方法は、逗子市総合計画において教育委員会の権限に属する前期実施計画の目標並びにリーディング事業に対する取り組み概要、自己評価、外部有識者の御意見及び今後の取り組みの方向性を記載したシートを作成いたしました。そして、点検及び評価の客観性を確保するため、お二方の学識経験者の御意見、御助言をいただいております。学識経験者といたしましては、昨年度と同様、横浜薬科大学教授 福田幸男先生と文部科学省委嘱の学校業務改善アドバイザー 妹尾昌俊さんをお願いをいたしました。

本報告書は、次期市議会定例会に提出をするとともに、市ホームページその他で公表をしていく予定でございます。

以上で説明を終わります。よろしく願いいたします。

○村松教育長

本件について御質疑、御意見はありませんか。

○塚越委員

全体を拝見しました。質問というか、意見に近いものですが、私、教育委員として総合計画の審議会にも出ているのですが、その場でも市長がいる場で発言をさせていただいたのですが、なかなかこの2013年に目標を設定して8年間で目標改善、実施していくというのは、見ていると難しいなというのを、やはり改めて感じました。今回の30年度の報

告書を拝見しても、2013年当初に設定した目標が適切だったのか、どうなのかなというふう
に思います。読んでいて、正直、書き方が苦しかったのではないかなというのが、いくつか
実際報告書で拝見できました。

ざっと気になったところをピックアップさせていただきますと、ノンプルの15、16の文化
プラザホールについて、2013年度末のアンケートの満足度が86.2%で、それを90%にする
というのが2022年度の目標だという当初の計画に対して、平成30年度の自己評価、86.8%で目
標の90%をおおむね達成したというように書いてありますね。ですけれども、当初の現状が
86.1%から、目標は90%というふうに言っているのを、86.8%でおおむね達成したというの
は、ちょっと苦しいのではないかなと。それは、ただアンケートでそもそも90%をねらうと
いうことが、果たして目標として適正だったのかというところに、この目標設定について私
は感じまして、ですとか、ちょっと飛んで、ノンプル19の文化ホール、文化プラザの利用者
が年間10万人になっている。2013年度末の現状9万2,218人、2018年の実績が8万7,728人。
つまりは、2013年の現状より減っているんですね、この数字だけを見ると。おおむね高水準
を維持したという自己評価なんですね。何となく、そこはどういう評価になっているのかな
というのが、ちょっと見づらいというか。これは今よりも下がっていることじゃないのかな
というように感じて。あと、例えば23ページのスポーツ実施率が3人に2人、66.7%になっ
ていると、週1回のスポーツ実施率が。それは2013年、62.8%だったのが、24ページの自己
評価においては、スポーツ実施率は56%、2013年より下がっています、割と大幅に。でも、
目標値を下回っているが全国平均は上回っているとフォローしていると。何となくこの一つ
一つが正直、自己評価と数字の認識が拝見すると気持ち悪いというか。それは実情として当
初の目標があまり目指すべきものじゃなかったという認識があるんじゃないかなみたいなふ
うに感じるのですけれども。もしそうだとすると、やはり目標の設定を8年間維持するとい
うことに無理があるのではないかなと。ないしは、目標として置いてそれを守っていくのだ
ということであれば、目標に対して真摯に評価するべきだなと思うのです。そのあたりが制
度として難しいのだろうな、現場の方々ということをすごく感じるのですけれども、今後20
22年に向けてという、2023年、次の8年間を目標とするときに向けて、あるいは今、目の前
に、次、後半に入ってくるに当たって、目標そのものを修正するとか、ないしは目標の設定
の仕方をちゃんと、こういう解釈でこういうふうなというのを一回仕切り直すとか、何と
なく自己評価で心苦しい表現をするよりは、仕切り直しをちゃんとして、現場の方が動きやす
いようにするということが総合計画の目標に対して、この枠組みに対して非常に真摯な取り

組みなのではないかなというふうに、いくつか今、例を出しましたけれども。個別に対して
どうこう言うつもりはないのですけれども、全体に関しての感想として感じました。

○村松教育長

ありがとうございました。点検評価というよりも、総合計画の目標設定に関しての御意見
というようなことですが、ここについては委員が多分定例会の中でお話をされていること
ですが、これについては特には見解とかコメントということで。例として、出された内容につ
いて、もし個別に何かあれば、ほかの方から。今、一例として出されたもので、個別の指摘
というわけではないのですけれども。

○阿万野文化スポーツ課長

今の御指摘いただきました文化プラザホールの入場者数10万人という目標につきまして、
こちらの外部評価、文化振興基本計画調査評価委員会のほうでも、当初の目標10万人は厳し
いのではないかという御意見をいただいております。その中で、達してはいないけれども、
頑張っているというようなところでの評価をいただいております。

○村松教育長

違うところでの評価。

○塚越委員

多分実情そうだと思います。それに対する努力をすごいなさっているというのも、そのと
おりだと思ひまして、やはりどちらかという、こういった計画を立てるときの目標設定の
妙というか、すごく大変なのだ。一方で、数値目標を掲げるって、すごく素晴らしいことと
いうか、曖昧にすることももちろんできると思うのです。それをあえて数値目標を掲げた
という、当時のこれを記入された御担当の心意気みたいなものはすごく感じるのですけれど、
一方で、でも実情は難しいし、こういうことをやっているのだったら、そこを変えていくと
いうか、単なる当時これを決めたときには、目標変更をしない、変えないという方針でつく
られたというのは十分理解しているのですけれども、ぜひ現場としては変えていって、ちゃ
んと実態と目標と、そこに対してちゃんと積み重なっているのだということが市民に対しても
胸を張ってプレゼンできるという状態につくれるように働きかけていけたらいいのではない
かな。次の4年間に向けて。というのは、改めて感じます。この話は、市長もしたとき
に、市長も、そうだよねと、目標はどんどん変えていこうよというようにおっしゃっていた
ので、あとは事務方からの働きかけだったり、まとめていらっしゃる市の担当部署とのやり
とりだったり、大変だと思うのですけれども、この制度そのものがちゃんと生きてくるため

には、実態が違うのだったら違った目標に、より高次の目標に含めて変えていくということ
をすることがいいのではなかろうかという、これ、毎回いつている意見ですけど。

○村松教育長

先ほどお話ししたように、総合計画のつくり込みの話ですので、教育部だけということでは
ないと思いますが、例えばこの総合計画自体が過去に決めたものは改良するということとは
あると。点検評価の報告書の記載方法ですとか、そういうところでの工夫というのは、可能
なんでしょうか。

○村松教育部次長

数年前から点検評価については、この総合計画に沿ってということで、物差しを改めて統
一をするということで、また統一したことで、経年変化もこれで見ることができるとい
うことでやってきているところでございます。その点検評価のシートについては、検討の余地は
あると思いますが、基本的な考え方としては、総合計画の実現状況を踏まえた教育委員会の
事務の執行状況の点検という形を続けていきたいと、事務局としては考えているところで
ございます。

○村松教育長

ありがとうございました。見比べるためには、枠が同じほうが見比べやすいということ
ですから、そうすると最後が記載の表現の仕方ということになります。ここは私も参加者とし
て見ています。2013年度末の数値は下回っている要因を出していただいて、その要因が前年
度よりもさらに解消されたとか、そういうことがわかっていけば、数値に達していないこと
だけをもつての指摘は、この場でもないですし、特にはないと思いますので、その要因が何
かということがしっかりと把握できていれば、次年度に伝わっていくのかなということ
ですが、今後、記載の方法で工夫をするというようなことが、枠のスタイルはこのまま、総合計
画ですから、そこも教育部としてつくり直すことはできませんけれども、記載の方法を来年
度に向けて少し検討していくというところをウェルカムかなというように思っております。

他にこの総合計画の今の関連して。

○村上委員

総合計画の報告書のことに関連してではなくて、それ以外なのですけれども。この報告書、
これだけまとめるのはすごく大変なことだと思います。どうもありがとうございました。中
を見させていただくと、アートフェスティバルやスポーツの祭典なども時期が終わってしま
っているようなイベントのことが書かれてあったりとか、せっかくこういうようなまとめる

のが大変なものを仕上げるので、その次の年度に生かせるような形で進められるといいのではないかなというように感じました。時期がもう少し前倒しになるのは、本当に事務局には大変なことだと思うのですが、それを、これを生かしながらいくということで、つくったものが、ただの書類で終わらないで、生きた書類になっていけばいいなというように感じました。

中を見せていただいて、少し質問があります。31ページの教員の授業力、学級経営力のところで、手段の①のところで、生活アンケートを定期的実施しているということで、先生方へのアンケートだと思うのですが、その内容がどのようなものかと、あと、定期的なというのはどのくらいの頻度で行われているのか教えてください。

○村松教育長

生活アンケートは児童・生徒に対してだと思いますけれども、その概要について、どんなものを簡単に説明をしていただけますか。

○枚山学校教育課長

今、教員に対してということでしたけれども、これは子どもに対して、児童・生徒に対しての生活アンケートになります。内容につきましては、各学校で若干差はありますが、例えば友達同士の関係であるとか、嫌なことをされたとか、あるいは悩み等を聞き取るためのものです。回数も、学校によって多少差はありますが、以前の1学期、2学期、3学期に当たる部分の年3回をしております。以上です。

○村松教育長

児童・生徒に対してですね。

○村上委員

これは、いじめのアンケートとはまた異なる、ふだんの生活のというアンケートということでしょうか。いじめのアンケートとはまた別のものですか。いじめに対してのアンケートも行われていると思うのですが。

○枚山学校教育課長

そういった、いじめの認知というか、そういったところも確認するために行っているものと考えております。

○村松教育長

兼ねて。いじめのことだけを取り出してアンケートをすると、答え方が子どもたちがやや構えてというんですかね、なってしまうので、学校生活全般という意味で生活アンケートと

いう表現で、その項目の中には、いじめには至らないけども、例えば学校は楽しいですかとか、友達関係がどうなのかとか、自分のことだけではなくて、クラスに元気のない子、表現はちょっと適切ではないかもしれませんが、気になる子がいるかとかという、そういう側面もたしか項目にあったと思いますけど、そんな感じでよろしいですか。（「はい」の声あり）というようなことだったと思いますので、いじめの項目も入っている。

○村上委員

あと2点あるのですけれども、32ページの不登校対策推進担当者会というものが立ち上げられて、新たな取り組みが市全体に提示できたということだったのですけれども、保護者に対しての提示の仕方であったりとか、市民に対して何か広報的なものが行われたのであれば、どのようなことが行われているのか教えてください。

○村松教育長

不登校対策推進担当者会の立ち上げということで、市全体に提示できたというようになっていきますけど、具体的にどんなような提示をされたのか。もしわかれば。

○奥村療育教育総合センター主幹

昨年度、今ありました不登校対策の担当者会で、主として教育相談コーディネーターの方たちの参加が多かったのですけれども、特に文科、国研のほうで出していた不登校の未然防止ということで、年3回行っておりました。各学校に不登校の未然防止というところでのアンケート調査をしていただいて、それを各学校に広めていったということで、昨年度、私おりませんでしたから詳細はあれですけれども、聞いております。

○村上委員

せっかくの取り組みなので、保護者の方であったりとか、学校からのたよりなどに、市としてこういうことで取り組んでいますという告知があってもいいのかなと思います。保護者の安心という面で、そのように感じました。

あと、もう1点なのですけれども、39ページの教育相談コーディネーターのコーディネート力アップに向けた取り組みも必要になるという、一番最後で書かれていて、全くそのことはすごく大切だなというように感じました。また、それが逗子市の支援教育の冊子を、これと関連してちょっと見させていただいたときに、支援シートの共有として、ほかの他団体との共有した取り組みをしていきたいという、この図が書かれていて、その中で児童相談所であったりとか、子育て支援課であったりとか、ふれスクや学童、あと地域の療育施設、医療機関ということで、チーム支援というように書かれていて、学童の現場での話を聞いてみる

と、やはりそこら辺の共有がまだされていなくて、何をしているのかもよくわからない。そこら辺のそれに対してこういう、どのような扱いをしていいのかというところを手探りでやっているというところもありますので、ぜひこの、今後の取り組みの方向性として、共有というところを加えていただけたらいいなというように感じました。すみません。これは質問でなくて、意見になります。

○村松教育長

今、支援シートの共有の範囲ということが出ているのかなと思いますが、その点については。学童というのが出ていて、学童は今まであまり、確かに共有先として話題になってきていないですけれども。取り組みの考え方とか何か、もしあれば。

○若林委員

保育園も、今の支援シートの話ですけれども、作成は個別支援のお子様に対して、園のほうでも作成していますけれども、その作成が目的ではなくて、活用が目的とされることがよいと言われている中で、実際に支援シートを作成して、卒園させて、その後どのように活用されていくのか、何か具体例というか、があれば教えていただきたい。というのは、やはりその後、ぷつんと情報が切れてしまうので、なかなか、今、幼・保・小の連携の絆の問題もありますけれども、その辺、振り返りをさせていただけると、今、書いている支援シートが、こういうようにいって、あの子がこういうように育っていくのだなという見通しが立つのも、保育士たちも、そこにさらにモチベーションも上がるというか、わかりやすくなると思うので、その後の活用、実際の活用方法といいますか、教えていただきたいと思います。

○村松教育長

支援シートの連携の概要をあわせて説明をしていただければと思います。

○奥村療育教育総合センター主幹

まず、逗子の支援シートにつきましては、書式を小・中については統一をしております。その支援シートについては、まず特別支援学級のお子さん、それから通級のお子さん、このお子さん方については必ず作成をお願いしております。あと、適応指導教室に通われている方であるとか、あるいは教育研究相談センターの教育相談に来られているお子さんといったようなところについては、ぜひつくっていただきたいということで、各学校をお願いしております。それ以外に、各学校の校内支援委員会というところがございますので、その委員会の中で、この子についてもぜひ支援シートをつくって、情報共有をしていこうというようなことで、作成をしています。対象については、そういうところです。

また、平成30年度、学校教育法の施行規則の一部改正というところがございまして、教育と福祉の連携ということが強く言われております。それで、今年度につきましても、支援シート作成について、子ども発達支援センター「ひなた」との連携というのは、前々から行われているのですけれども、それ以外に、市内指定障害児相談支援事業所等、福祉は福祉で当然そういったシートをつくっていますので、それをつくるとき、あるいは学校としての支援シートをつくるときに、情報共有をして作成をしていこうと。一番いいのは、保護者と担当者が集まって、その場でつくれるといいのですけれども、なかなかそうもいかないの、情報共有をしていいかということを確認をし、了解をとった上で、学校と福祉関係とで情報共有しながらシートを作成しているということでございます。

○村松教育長

という回答ですが、いかがでしょうか。

○星山委員

ちょっと関連して。学識経験を有する方の御意見というところで、いろいろな御意見いただいていると思うのですけれども。今の話もそうなのですけれども、逗子市としてすぐれた取り組みもたくさんあるのですね。今の支援教育に限りませんけれども、他市でやっていないような、先駆的なすばらしい取り組みも実はたくさんあって、だけど、それがどれがすぐれた取り組みで、でも、そこでもまだ不十分なものがあるのですね。それはもう常に常にニーズが変わっていくからだと思うのですね。ここの保育園のところで、すぐれたものはなぜうまくいっているのか、あるいはなぜうまくいかなかったのかということの反省点が必要なのかと、65ページのところに、全市で共有して、管轄をまたいで問題を共有していく。そして、よりよいものに改善していくことが必要だと書かれていること、そのものだなというように思いました。

今のところに戻ると、主に31ページから33ページの学校教育に関するところなのですけれども、私も教育委員になってからいろいろなことを学ばせていただくことになり、1番は今出てきたような、どこがすぐれているかということが意外に共有されていないのではないかなということがあります。今の質問いただいたこととちょっと関連があるのですけれども、例えばですけれども、ひなたファイルとか、共有する支援のファイルづくりなどというのは、やってないところもあって、そういう意味においては、第1段階としてはとても頑張っている部分ではないかなと思うのですね。さらに、それが課題として残っているのは、トライアングルプロジェクトとあって、今、御説明いただいたように、これから福祉と教育と保護者

と本人がどういふように情報を共有する方法論をどうしていくか、専念されていくかというところに流れ的に入っているのですね。だから、そこに関しては、まだこれから課題なのです。だから、保・幼・小と学童を含めて、A君がいたら、Bさんがいたら、例えばその共有をどういふふうに一元化していくかということ、ファイルだけではもしかしたら足りないかもしれない。もしかしたら、それこそICTを使って、電子ファイルのプロジェクトに入っている市もあるので、そういうこともひょっとしたら将来は必要になるかもしれないというようなことを、課題を明確にしていけば、また次年度以降いろいろなことをしていくときに、次につながるかなど。これ、今のファイルは一例なのですけれどもね。決してやってないわけではないのだけれども、やはりステップを置いて、踏んでやっていくので、どこまでできていて、次が何なのかということがもう少し全体としてわかりやすいと、私たち…私たちというか、いろいろなことをやってプランニングしている側も、それから御協力いただいている方たちもわかりやすいかなと思いました。

それから、今のこととちょっと私は個人的に課題だなと思っているのは、今の連携のところもまさにそうなのですけれども。あと、先ほど教育長さんが報告のところでおっしゃっていた働き方改革のところですね。特に教員の働き方改革に関しては、多分このプランをつくったころに、ここまで重点項目になっていなかったのではないかなと思われるのですが、やはり昨今、教員の、本当に仕事が大変で、どうやってそこを改善していくかということに関しましても、これからさっきのスクールサポートで事務的なことを手伝えるスタッフをどうやって入れていくかなんていうことは、やはり新たに出てくる課題なので、そういうところもこれからどういふふうを考えていくかなというところも、ここには出てきていないのですよね。もともと出てきてないものだから、そこに対しての評価もないのですが、新たな課題として、やはり見えてくるものもあるなというように感じました。これが前半のところです。

先ほど皆さんが出ていたところ、評価方法のところちょっと1つだけお願いというか、なのですけど。私も研究していると、評価対象になりやすいものって、数値化しやすいものなのです。だから、結局アンケートの回答の1、2、3、4、5であったり、何人参加したかとか、何%目標を立てて、どこまで達成したかという評価になると、どうしても数字に引かれて、数値化しやすいものにはいきがちなのですけれども、先ほどから出ているように、例えば不登校やいじめの予防なんていうものは非常に数値化しにくいものであって、しかしとても大切なところなのです。それから、ここに出ている例えばお互いを認めやすい学

級づくりなんていうのも、非常に評価しにくいところです。でも、すごく一生懸命取り組まれているので、逆にどうなったらそこが表現できるのかなということも、あわせてバランスで考えていただけたらありがたいなと。数値化できるところが非常に頑張っていますねと誤解されたり、あるいはこれからいろいろな問題行動であるとか、いじめであるとか、不登校であるとかという、数値だけという、やはり数値だけひとり歩きしてしまって、そこに含まれているさまざまな状況とか取り組みとかというのを、やはりかき消されていくことが多いと思う。また誤解も受けるというので、その辺の表現方法に関しては、今後もいろいろなところで工夫が必要ではないかなと感じました。以上です。

○村松教育長

ありがとうございました。関連して、いくつか今、話題が出てきましたので、これに対して事務局のほうから。御意見のところもありましたし、質問ばかりではないので、今後のこともあると思いますが。

まずは、32ページの先ほどの指摘があった、市全体に提示できたという記載があるのであれば、教育委員さんがそれを事前に見ておくという、それには伝わっているという多分前提の表現だと思いますので、情報発信とか提示とかということの大事さを改めて今の御意見の中ではいただいたというように私は受け取りました。この項目に限らず、支援シートが一番最初につくられて、どのようなところにどういうふうに使われているのかという情報が行くということも、今まであまり話題になってこなかった視点ですので、これは項目ではなくて、考え方として確かにそうですねというような内容です。

それから、働き方改革の今の星山委員の意見については、項目としては確かに総合計画、それから考え方の途中から出てきている言い方です。子どもに接する時間を増やすというような言い方は教員の中でもあったのですけれども、さらに一步進んだ働き方改革。ただ、この学識経験者の妹尾さんが全国を回って、そういうセミナー等を行っているので、その視点から随分書いていただいていると思いますから、私たちもそれを意識した上です、項目にはないけれども、全部の項目でその視点をもって今後記載をしていく、確認をしていくということかなというように思います。

最後に、数値化については、数値化することは重要だけど、数値化しやすい項目だけに偏ってはいけないという御指摘というように受け取りました。教育や目に見えないものを、さっきの満足度、それから友達を認め合っているというのは、多分生活アンケートの中にも入っているかもしれないので、そういうところのピックアップし、何かしら成果があらわれる

ような工夫をまた各セクションでしていただければと思います。

点検・評価報告について、他に御意見ありませんか。

では、いろいろな御意見をいただいた上で、御質疑、御意見がないようですので、これより表決に入ります。議案第10号については可決することよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

では、御異議ないものとして、可決することに決定いたしました。

具体的に言うと、議会の提案はどういう場で、どういうふうに進める予定ですか。

○村松教育部次長

次期市議会定例会の全員協議会におきまして、行政委員会報告という形で提出をさせていただきますことになります。これは例年どおりということです。

○村松教育長

以上で日程第3「議案第10号」を終わります。

◎日程第4「その他」

○村松教育長

日程第4「その他」を議題といたします。

その他、議事としてありますか。

○枚山学校教育課長

それでは私のほうから、前回10月24日に行われました10月の定例教育委員会以降の市内小・中学校の様子を校長・教頭からの報告をもとにお伝えします。

まず小学校からです。池子小学校では、10月19日（土曜日）から25日（金曜日）まで「学校へ行こう週間」を開催しました。保護者、地域の皆様、延べ320名が来校し、子どもたちの授業の様子等をごらんいただきました。この後、他の小学校では順次「学校へ行こう週間」を開催します。

11月7日（木曜日）に市内合同音楽会が逗子文化プラザなぎさホールにて行われました。市内の各小学校の児童が集まり、それぞれ合唱と合奏を披露しました。児童たちは大きなステージで緊張したようですが、たくさん練習した成果が出せたようです。

続いて中学校です。10月26日（土曜日）に3中学校で合唱発表会、文化部発表会が行われました。合唱発表会では、どのクラスも練習のときから歌うことを楽しんでいたようで、保護者の方々も満足の、すばらしい発表をすることができました。学年が上がるに連れて大人

の声、大人の表現が加わり、生徒たちの成長も感じることができました。文化部発表を行った学校では、美術部や科学研究部が毎年楽しい発表を披露してくれています。今年も期待どおりの、笑いあり、感心させることありの発表をしてくれました。

11月8日（金曜日）に、沼間中学校で研究推進校研究発表会が行われました。沼間中学校は昨年度の中間発表に引き続いて、2年間の委託研究のまとめとして研究発表会を行いました。全員が参加でき、深い学びのある授業づくりを研究主題としての取り組みでしたが、当日は市内の各学校から多くの教員が参加し、研究発表の参観、及び研究協議を行いました。

中学校では体育祭、合唱発表会、文化祭という年間の柱となる大きな行事が終わりました。学校訪問の際にもごらんいただいたと思いますが、生徒たちは比較的落ち着いた様子で学習に励んでいます。逗子中学校は、11月6日から8日までの3日間の日程で、3年生の後期の中間試験を行いました。久木中学校、沼間中学校は明日から3日間で行われる予定です。3年生に関しては、既に進路決定モードに入っているようです。来春の新しいスタートに向けて、今月末には進路先を決定することになっています。1、2年生につきましては、各学年の行事、職業体験学習や東京めぐりなどの計画と準備を進めているところです。

最後になりますが、池子小学校 坂寄雄哉教諭が、本年度の神奈川県優秀授業実践教員として選ばれ、決定したことを御報告いたします。この表彰は、授業実践にすぐれ、教員の模範として推奨すべき者を顕彰し、贈られるものです。坂寄教諭は総合的な学習の時間において児童の主体性や地域の実態を大切に、学習指導要領に沿った授業実践を行ったことが評価されました。既に11月6日（水曜日）に神奈川県庁本庁舎大会議場にて表彰式が行われ、表彰状が授与されました。

以上、小・中学校の様子をお伝えいたしました。

○村松教育長

ありがとうございます。本件について御質疑、御意見はありませんか。

○若林委員

11月7日の市内合同音楽祭に行ってみりました。各小学校の4年生ですね。始まる前はすごい元気で、それぞれがいっぱい楽しいお話もして、大丈夫かなとちょっと思ったぐらい元気だったのですけれども、いざ始まると、とてもすばらしくて、感動しました。学校訪問も行ってたので、あの子供たちがこんなふうに発揮できているのだとか、卒園児もいたりとかしてましたので、すごくすてきな会だなと思いました。保護者の方はいらっしやらないですね。呼ばれないですね。後ろの空席もあったので、ちょっとこの時間だったら、

年長児が聞いたらすごく感動するだろうな、とてもいい経験になるだろうなとふと思ったぐらい、とてもすばらしかったと思います。先生たちもお忙しい中、本当に人員不足もちょっと学校訪問で聞いていましたから、よくこんなに指導をされて、すばらしくできたな、大変だったろうなと思って感謝しています。ありがとうございました。

○村松教育長

今回は沼間中の研究発表と小学校の合同音楽祭が重なってしまったので、私もそちらには参加できなかったのですが、始まる前の緊張と、終わったときの充実した顔と対照的で、あのすてきなホールを体験するということも含めてですね、いい、貴重な体験だなというふうに私も感じております。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○村上委員

私は10月26日の逗子中学校の文化祭に、午前中ちょっと所用がありましたので、午後から伺ってきました。吹奏楽部の演奏と、あと子どもたちの寸劇のようなものだったりとか、先生たちも交わって、すごく活気ある、中学生らしい会で、すごく楽しそうに皆さん参加されているなということを感じてきました。

また、30日に久木中学校の学校訪問に行ってきました。そこでとても印象的だったのが、校長先生も一緒に回っていただいたのですけれども、子どもたちが本当にコミュニケーションがとれていて、そこら中で挨拶が交わされていて、それが子どもたちの安定だったりとか、先生たちの働きやすさになるのだろうなというように感じました。ありがとうございました。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○枚山学校教育課長

先ほど市内小・中学校の様子で、沼間中学校の研究発表会、11月8日（金曜日）と報告させていただきましたが、11月7日（木曜日）の間違いですので、おわびして訂正させていただきます。

○村松教育長

他に学校訪問等も含めて、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、他に事務局のほうから議事として何かありますか。

○村松教育部次長

本日は以上になります。

○村松教育長

それでは、委員の皆様からその他議事として何かありますか。

○塚越委員

先ほど教育長の御報告からも、せんだっての台風の件がございましたけれども、先日、市長と教育委員のほうで行わせていただいた総合教育会議の場、あるいは何月だか忘れてしまいましたけれども、定例会の場でも以前触れさせていただいた、そういったいろいろな災害が起きている昨今、防災という観点について、学校現場での防災計画の各校がばらばらであるところを平準化していただきたいという話と、そういった情報の保護者への周知、それから実効性を確保していただきたいという話を、定例会の場とそれから総合教育会議の場でさせていただきました。そこに関しては、その方向で改善していくと、事務局の皆さんも、市長も御回答いただいているのですけれども、私どもの管轄としては、学校だけではなくて、保育園とか、学童とか、子どもがかかわる私どもの管轄の現場それぞれにおいても、同様に計画の実効力と、あと保護者の連携ということが肝になってくるのではなかろうかなと思ってまして、この場で御回答というのもなかなか難しいと思うのですけれども、現状どのようになっているか。または課題があるのであれば課題を明確化して、そこに関して推進していくということが、これだけいろいろな災害が起きていく昨今ですから、重要ではないだろうかと思ひまして、御意見させていただきました。

○村松教育長

御意見ということで、関連の所管につきましては、きのうの会議でも、次が来年の6月かもしれないけれども、雪もあるし、どこで停電になるか、災害になるかわからないということで、台風だけではなく、さまざまな災害に対して今回の教訓が次に生かされるようにと。今回は本当にどこでも混乱をして、大変だったとは思いますが、それが生かされるようにとということで、取り組みをぜひ関係所管でお願いをいたします。

他に、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、ないようですので、以上でその他について終わります。

本日11月12日をもちまして、教育長職務代理を務めていただいております塚越暁委員が任期満了を迎えられます。つきましては、次期職務代理を村上朝鼓委員にお願いしたいと思います。村上委員におかれましては、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、改めまして、任期を迎えられます塚越委員から御挨拶をいただきたいと思ひます。塚越委員、よろしくお願いをいたします。

○塚越委員

4年間、大変お世話になりました。ありがとうございます。思い返して、4年前、右も左もわからない一保護者ということで、この場に参加させていただきまして、そのときはすぐ教育委員会、どんな場所なのだろうと、どきどきしながら、もっと言うと、ちょっと覗き見てみようみたいな感じでいたのですけれども、学校訪問の現場ないしはこういった議論の場、それから裏での事務局の皆様とのやりとりの中で、非常に日々子どもたちのことを考え、運営しながら、かつ2年後、3年後、ないしは10年後の先を見据えて改革をしつつ、でも、日々事故を起こさないという運営をやっていくことは、どれだけ大変なのか。そこに対してお一人お一人の皆さんがどれだけ思いをもって仕事をされているのかということ、すごく実感しまして、教育委員という立場は、その実態、そうやって皆様が頑張っているということ、なかなか見えないことを、ほかの保護者だったり市民の方に伝えることということ、いっぱいやっていかなくちやいけないのだろうと、私は当初思いまして、そういうことをやってきたつもりです。

ただ、それでもやはり今ちょっと前に意見をさせていただいた安全ですとか、あとは先ほどの子どもたちの安心ということに関しては、社会情勢を含め、子どもたちの状況を含め、日々変わって行って、我々がこれでオーケーだと思うスピードよりも、もっともっとスピードを速めて先手を打っていかないと、何か大きな事故が起きてしまう可能性が非常に怖いというか、ぎりぎりのところで保っているのだなということを実感しています。なので、そこに関しては教育委員として私ができることって、まだまだ少なかったと思いますし、これから先の教育委員の皆さんにお願いしていくことになると思うのですけれども、ぜひ子どもたちの安全・安心、ずっと教育長がおっしゃられていた、その観点においては、最優先で打つ手をどんどん打っていくということをやっていただけたらなと思います。

本当に4年間お世話になりました。まだまだできてないことも多々あると思うのですけれども、これからは一市民、一保護者としてやれることをやっていこうと思いますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○村上委員

塚越委員、本当にお疲れさまでした。定例会、勉強会などで塚越委員が市全体の動きを俯瞰して見た、鋭い視点の考えなどを聞かせていただき、私たちもとても勉強させていただきました。特に教科書採択や教育ビジョンのバージョンアップでは御尽力をいただき、本当にありがとうございます。そして、子どもたちを守る防災に対する取り組みには、とても

力を入れられていました。今もお話がありましたけれども、防災に関しては塚越委員の意思を引き継いで私たちも取り組んで、真摯に取り組んでいきたいと思っております。

また、今後お仕事として子どもたちの自然の中での健全育成に携わっておられるので、ぜひ今後も逗子の子どもたち、日本の子どもたち、そのことに関しても本当にまた御意見などもいただけたらと思っております。今後もよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○村松教育長

さらに私からもお礼を申し上げたいと思います。私が一番塚越委員のこの4年間で印象に残っているのは、きょうもありましたけど、「気持ち悪い」という発言ですね。気持ち悪いというのは、多分表現として、本来は納得がいかないとか、それから不適切と感ずるとかという表現だとは思いますが、そこは塚越委員の表現で気持ち悪いという言い方をさせていただいて、私たちに対する配慮と、それからそれが具体的にどんなふうにならぬかという点について、期待も込めての表現かなというように思っています。さまざまな面で見落としがちな視点を、あえて言葉に出して言っていたらということが本当によくわかり、8割同感であっても、残りの2割をきちんと指摘していただくという、その姿勢をずっと貫いていただいて、私たちには貴重な視点をいただいたというように思っています。今後とも市民、保護者ならず教育委員のOBとして、そういう場面が最近が増えてきていますので、御尽力いただければと思います。本当にありがとうございました。

では、次回の定例会についてですが、12月9日（月曜日）午後2時30分からを予定しておりますが、決定については改めて委員に御通知いたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして教育委員会11月定例会を終了いたします。ありがとうございました。